

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500070		
法人名	株式会社ニッケ・ケアサービス		
事業所名	ニッケふれあいセンターかかみ野		
所在地	岐阜県各務原市鷺沼各務原町8-7		
自己評価作成日	平成24年8月2日	評価結果市町村受理日	平成24年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_2010_021_kani=true&amp;li_gyosyoCd=2190500070-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi.onCd=021">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_2010_021_kani=true&amp;li_gyosyoCd=2190500070-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi.onCd=021</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人に合わせたサービスでゆったりとした流れの中で、“笑い”のある空間作りを提唱しています。  
 安全第一を基本に、事故を起こさない工夫や努力と、職員の意思統一を常に皆で検討しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症の専門スタッフを揃え、利用者・家族が安心して利用してもらい、「第二の我家」と思ってもらえるような事業所を目指して努力している。事業所が推進している「若年性認知症サロン」は、市や地域包括支援センターの支援を得て月1回、第三日曜日に開催し、回を増す毎に好評を得て、参加者を増やしている。事業所独自の豊富な行事計画に加え、手芸、メイクセラピー等の教室をボランティアの協力を得て開催したり、地元の歌手を招いたりしている。地域住民が集まり易い雰囲気作りを、運営推進会議で検討している。長期災害の対策として、地下水からの取水が可能であることや60人程度の3日分の備蓄食料の蓄えがあることから、市の第二次避難場所の指定を受けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様が住み慣れた場所で生活出来る又、ご家族様の介護負担の軽減をいつも念頭に置き、職員間で共有し実践につなげている。	今年、職員の思いをアンケートして集め、話し合っ て法人の理念も活かした事業所の理念を決定し た。「寄り添う介護」、「笑顔で応対」、「感謝の気持 ちでおもてなし」を介護の実践につなげるよう、 ミーティングで話し合いながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一人として日常的に交 流している	高校生の実習生の受け入れ、地域の方々との 挨拶、施設のイベントへの参加呼びかけ 等交流が出来ていると思います。	事業所独自の豊富な行事計画に加え、手芸、メイ クセラピー等の教室をボランティアの協力を得て 開催したり、地元の歌手を招いたりしている。地域 住民が集まり易い雰囲気作りを運営推進会議で 検討して、地域へ溶け込めるよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	介護相談や施設のイベントを通しての地域 貢献運営推進委員会、若年性認知症の交 流会他、地域の方々に参加しやすい働きか けをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	会議の中で出たアドバイスを活用している。 日常的な活動を月単位で報告されるのは、 張り合いにつながっている。	多くの意見を取り込むため、利用者、家族の参加 を呼びかけ、会議には利用者、家族を含め、自治 会長、市や地域包括職員が参加している。事業報 告書を配布して説明し、意見・提案をもらい討議を しているが、その議事録には会議の内容が明示さ れていない。	会議の内容を関係者が周知・確認で きるよう記録し、議事録を有効活用す る方法を検討して、さらにサービスの 向上につなげるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難や問題は相談し、一緒に問題解決につ なげている。	市の担当者とは事業所の行事の協力や新規移設 等の相談をしている。事業所が推進している「若 年性認知症サロン」を市や地域包括支援センター の支援を得て月1回、第三日曜日に開催し好評を 得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は家族様了解の下利用者様の 安全第一には必要に思います。その他に関 し居室の施錠、ベットの柵などの拘束はして いません。	日中は玄関の施錠はしていない。拘束につ ながる「だめ」という言葉を使わないよう、職 員は心がけている。ミーティング時には、職 員の目立つ言葉や行いを上げて虐待や拘束 にならないか話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を 払い、防止に努めている	利用者様の尊厳、人権尊重は当然の義務 権利です虐待はあっては成らない事として 認識しています。又、格等するものにつ いては、包括支援センターへ連絡をするよう にしています。		

ニッケふれあいセンターかかみ野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や資料により知識を身につけているが、現在は核当者なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読み一緒に不明な事を具体的な日常生活の事に話し直す事によって、より身近なものとして理解を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	改まった会議だけでなく、日常的な事にいつも配慮する。連絡帳を活用したり、送迎時にコミュニケーションを図り、家族からの意見を言いやすい雰囲気作りになっている。	利用者には、日常の関わりやコミュニケーションの中で意見・要望を聞いている。家族には、親しみやすく話しやすい雰囲気作りを心がけ、送迎時に意見・要望を聞いている。また、連絡帳に記入してもらい、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、提案は、定期的なミーティングで交換されている。また、日頃から問いかけるように心がけ、意見について反映し、質と意欲向上に繋げたい。	管理者は月1回のミーティングや毎日の引継ぎで、職員から意見・提案を受け話し合い、その都度、居合わせたメンバーで考え、即決して運営に反映させている。風呂に着脱可能な介助バーの設置等の提案が採用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年の昇給・賞与等で評価している。また、何でも話せる環境作りをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて随時指導しています。研修の機会は設けられている。自己のスキルアップに繋げ社外の研修も一人一度は積極的に参加し、報告と情報共有にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や交流会を実施し、悩みに対しアドバイスを頂いたりしています。また、イベントの際は、お互い声掛けをし参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の不安を取り払う様努力をしています。生活状況を把握しながら、悩み等、遠慮なく相談して頂ける様努め、相談があったときには必ず時間を作り傾聴しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様への対応は、利用者様と同様に会話を大切にしています。笑顔での対応を徹底し、信頼関係が出来るよう傾聴に心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	極力、話を伺う姿勢に徹し、不安を引き出し適切なサービス利用を受けて頂けるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を尊重し、かつ親しみやすい関係作りに努めています。出来ることの役割を持って頂き、出来ない部分のみ共に行っていきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	悩み等あった場合、その都度対応し、共に悩みどうしたらよいかを考えています。メールや手紙、電話でやりとりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人は関係なしでは生きられませんこれまでの馴染みはもちろん大切なもので途切れないように支援しています。	家族や知人からアルバムを持ってきてもらったり、昔の様子を聞いたりして情報を集め、「個人情報ファイル」にまとめている。事業所の行事には、馴染みの人達を呼んで交流している。馴染みの美容院には、利用者の希望の都度、事業所に出かけてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、関わり合いを大切に孤立が無い様職員が入り支援します。同じ趣味を持つ利用者様同士お知らせし話しやすい環境作りに努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年始・暑中等の挨拶は欠かさず出し、時には電話で近況をお伺い致します。退院された病院のドクターや相談員にもその後の利用者様の様子を連絡する様努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が話しやすい環境作りを心がけている。思い・希望・意向はご本人がどのような暮らしや経験をされたか等、寄り添って尋ね、話しやすい環境作りを大切にしたい。	アルバムや「個人情報ファイル」を活用して、入浴介護時や利用者の体調の良い時には、昔話等から話しかけ、利用者の思いを把握している。意志伝達が困難な利用者の場合は、たまに発した言葉やいつもの違いを家族に報告し相談している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人が話しやすい様、接し方に気を配り寄り添ってご本人から話しが出来る様配慮しています。職員に情報共有しながら、新しい情報は常に知らせ皆が把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝通いで来られたとき、訪問したとき等の状態や表情、話しの中で一人一人の観察を丁寧に行い、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人をより良く知った上で、課題を常に持ち、一方的な計画にならない様、職員間でも良く話し合い計画作成をしています。	介護計画は、かかりつけ医からの情報を携えて、計画担当者と管理者が利用者宅を訪問し、家族と相談して作成している。作成した計画はミーティング時に周知し、担当職員が1ヶ月毎のモニタリングシートを作成しているが、モニタリングの項目が介護計画に即した内容となっていない。	職員の気づきやアイデアを反映した介護計画を作成するため、介護計画に即したモニタリングシートを工夫されるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に実施しています。気づきや新しい情報を得た中から、役割や会話等 コミュニケーションに繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決められた設定の中でも接し方を丁寧にすることで、ニーズの発見・見直しをしています。柔軟に対応し、安心・安楽・安全な生活の支えが大切と思います。		

ニッケふれあいセンターかかみ野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設近郊には顧客力の有るスーパーと福祉系の高校が有り、特に高校は実習生の受け入れも有り、身近に感じて頂いていると思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	Dr、訪問看護師の連携は取れている。日常生活やバイタルチェックから異常の早期発見に努め、連絡することで信頼関係を作っている。	利用者に体調変化があれば、かかりつけ医に相談し指示を受けている。家族による通院ができない場合は事業所が支援している。通院記録は看護師が「個人情報ファイル」に記録し、家族にも報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様を深く観察し、日常生活からの異常の早期発見に努め、ナースとの連携も取っていますナースは処置方法等を統一し、職員にも情報提供をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院生活がどうい状況か退院に向けてどうい事が行われているか連絡を密に取って今後に備える。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向を知る。当施設出来る事、出来ない事を確認し最善の支援方法を提案しかかりつけ医等と連携をとり支援をしています。	利用者・家族には重度化した場合でも可能な限り支援したいと伝えている。看護師、医師、家族が、利用者の状態変化に合わせて、その都度相談して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な防災訓練・救命処置訓練を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時にはどのような行動をとるか何時でも実行出来る様心がけていきたい。訓練時には地域の方の参加もお願いしています。	今年7月、消防署の立会の下、初めての夜間想定避難訓練を実施した。長期災害の対策としては、地下水の取水が可能であること、3日分の食料備蓄が準備されていることから、市の第二次避難場所の指定を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には人生の大先輩である事、尊重して対応する事を徹底している。ご本人のリズム・パターンを知り、その方に合った対応を心がけている。	利用者への呼びかけは、本人の希望を確認して昔の呼び名を使用している。職員間では、排泄の状態を暗号で会話し記録している。羞恥心に配慮し、排泄時は膝にタオル掛けをする等、個人を尊重し、尊厳を守るよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中からご本人のやりたい事を聞き出し出来る範囲で希望が叶うよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせる様、会話の中で引き出せる様常に考え、職員間で情報提供しながら意思統一を図っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後自ら鏡の前でする人、少し支援する人又、希望者には、メイクセラピーを利用してメイクしてもらおうと、他者様と一緒に笑顔があふれます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話のなかで、何が食べたいか、以前よく作っていたものにはおやつ作りで場を作り活躍して頂いています。準備や片付けも、出来る方には一緒にやって頂いています。	個人毎に嫌いなもの、食べられないものは食札に表示し、別メニューを出している。また、食事の席を仲良し同士とするなどの工夫をして、楽しく食事ができるように努めている。おやつ作りでは、匂いなど五感を大切にして、皆で作って食べれるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめに摂取して頂いています。この時期は特にポカリスエットを摂取して頂いています。又、嚥下力の弱い方や摂取量の少ない方にはポカリスエットやお茶等をかんでんで固めて摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の義歯の有無や介助の必要内容を一覧表にまとめ ご自分で出来ない部分や出来ない方を職員間で統一を図り介助している、ガーゼやスポンジも使用し食物残渣物を残さない様にしている。		

ニッケふれあいセンターかかみ野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作成し不快感を無くすよう、時間を検討し、なるべくトイレで排泄して頂く様に誘導している。	排泄状況は、通いや泊まりだけでなく、家族の協力を得て、連絡帳に自宅でも記入してもらい排泄のリズムを把握している。この結果、個人別に目標を立てて、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家族とも連携を図りサプリメントや水分補給など行っている。必要なときは受診の際かかりつけ医に相談して頂く。その他、レク等で無理のない様運動を取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番風呂を喜ばれる方、仲の良い人と一緒に行きたい方、お一人お一人のタイミングとペースに合わせて入浴支援しています。	職員は、利用者の希望を聞き入浴温度、時間、入浴の仕方やタイミングを図り、好みに合わせた支援をしている。併設の通所介護施設にも超音波風呂、気泡浴、特浴等があり、選んで入浴ができるなど、利用者全員が毎日入浴を楽しんでもらうことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の声に応じて、又は、その日の健康状態で個々に合わせて休息をとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変化のあった事など記録に残している。チェック表を作成しており、ナースの指示の下、介護職員と一緒に確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居心地の良い場の提供に努めている。家族・本人からの情報を元にここで出来る事は、お願いしやって頂き役に立っているとの思いを、引き出してもらっています。同じ趣味を持つ方同士の支援・準備をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の夏祭りなど、職員と共に参加する。事業所の周りのさくらを見にいたり、前の高校生の様子を見学したりしています。	利用者1人ひとりが、何をしたいか、どこへ行きたいかを聞き、数人ずつ何回かに分けて、車いすの利用者も一緒に外出している。その他、家族の協力も得て、利用者の希望に合わせて、買物、喫茶等にも出かけている。	



ニッケふれあいセンターかかみ野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金を把握しその方の力に応じて対応している。施設内でのドリンクチケット代金や散髪代を、ご自分で支払われる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意思を尊重し実行して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ価値観の違いや、認知症の進行状況から対応の仕方とその都度工夫をしています。季節の壁紙を貼ったり飾り付けを行い安心感の有る空間造りにも工夫をしている。	利用者が作成した手芸、季節を表した貼り絵、習字、外出時や4周年記念行事の写真等を飾り、季節感や話題のタネとしている。事業所内は絨毯を敷き、靴をはかず居心地よくくつろげるようにしている。ソファや椅子は利用者にあった硬さのものを用意し、左きき用、右きき用の手すりを設置したトイレもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座る際や食事の席など気の合うお仲間が隣になる様配慮をしている。又、一人で過ごされるお気に入りの場所を見つけられる利用者様もいらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用してみえる、カセット・髭剃りなど、持参して頂き、安心感の有る空間作りに工夫している。	泊まり利用の多い利用者には、同じ部屋で宿泊できるように配慮し、見守りの必要な利用者には身体状況に応じて部屋を用意している。カセットテープやラジオを聞く習慣のある利用者には、それらを持ち込んでもらい、自宅での状態に近くなるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日頃から外を歩くことが好きな方が何処かで転ばれ入院、その後立ち上がりは出来るも車椅子で退院復帰される。歩きたいというご本人の気持ちが回復に向かい今ではフロア内を、自由に歩いておられます。		